

# 『おおきな木（通級指導教室）』だより



豊中市立大池小学校 R5（2023）12・5

No.3

## 学習・活動を支える「見る力」

コロナの2年間のあと、全国の小中学生の視力が低下したとのニュースがありました。視力がわるくならないように気をつけなければなりません、「見る力」は視力だけではありません。

### ①目から情報を取り込むための目の機能

読むときに文字をとらえる力、遠近感を把握する力・・・など

### ②目から取り込んだ情報を理解する機能

見た形を頭のなかでイメージする力 見た情報を記憶する力・・・など

### ③他の機能（感覚、運動）との連動

はさみで線にそって切る力 ボールを見て受ける力・・・などが関係します。

## ①「見る力」は毎日使っています

学校では、読み書きを繰り返すことで学習を積み重ねます。運動は、なわとびやドッジボール、マットも、見て動くことで動きを身につけます。

テストや提出物はほとんどが「読む・書く」の活動なので、評価にもつながります。

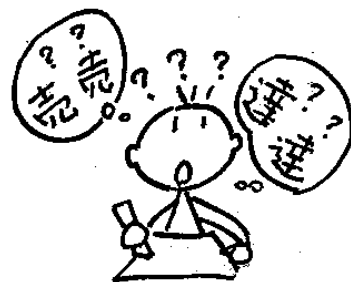
「見る力」は大切ですが、一方で読めなくても聞いたら理解できる子や、書けなくても話し言葉では説明し表現できる子もいます。

「見る力」が弱い子が前向きに学習や運動に取り組むためには、まず本人の苦手さを知り、やる気をなくさないように配慮することがたいせつです。

## ②こんなようすはないですか？

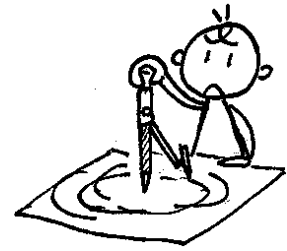
### <読み書きに関連する活動>

- ・読むときに行や列を読みとばしたり繰り返して読んだりする。
- ・文の終わりを省略して読んだり勝手に読みかえたりする。
- ・長い時間、集中して読むことができない。
- ・数字、かな文字、漢字の習得にとっても時間がかかる。
- ・表のたて、横の列を見誤る（百マス計算など）
- ・黒板を写すのが苦手な遅い。



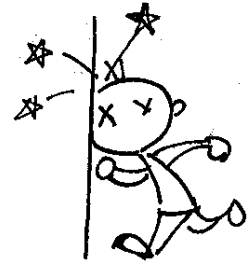
<手や指を使う活動>

- ・折り紙が苦手
- ・ハサミを使う作業が苦手
- ・図形や絵を見ておなじようにかき写すのが苦手
- ・定規、分度器、コンパスをうまく使えない。
- ・文字のかたちがとりにくい。



<動きや位置をとらえる活動>

- ・ラケットやバットでボールを打つのが苦手
- ・表やグラフを理解するのが苦手
- ・指さしたり提示したりしたものをすぐ見つけられない。
- ・つまづいたりぶつかったりすることが多い。



<ものをみるときのように>

- ・ものを見る時必要以上に顔を近づける。
- ・ものを見る時顔をかたむける。
- ・目を細めてものを見る。
- ・両方の目が同じ方向を見ていないことがある。



### ③どんな手立てがあるでしょう

本人の「見る力」の特性に合わせて、学び方や学用品を変えると効果が上がることがあります。漢字は何度も書いて覚えるより、部首に分けて意味から覚える方がいい子もいます。声を出して耳からの情報があるとわかりやすい子もいます。

ノートは補助線のあるマスが有効です。分度器も見やすいメモりのものがあります。

紙と鉛筆の学習だけでなく、体全体を動かすことが成長期の子どもにとってとてもたいせつです。

さらに、道具を使う経験が減ってきている今、意識して生活に手を使う道具を取り入れることもおすすめです。

「見る力」や発達検査についてのご相談・ご質問があれば通級指導教室でお伺いできます。まず担任の先生にご相談ください。

そのほかの学習・生活のことの相談、通級指導教室『おおきな木』へのご質問、見学希望などがあるときも、まず担任の先生にお話をしてください。

(豊中市立大池小学校 通級指導教室担当：藤木桂子)

<この『おおきな木（通級指導教室）』だよりは大池小学校 HP にも掲載しています>